

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成22年10月21日 (2010.10.21)

【公開番号】特開2005-152653(P2005-152653A)

【公開日】平成17年6月16日 (2005.6.16)

【年通号数】公開・登録公報2005-023

【出願番号】特願2004-340887(P2004-340887)

【国際特許分類】

A 6 1 F 2/02 (2006.01)

A 6 1 F 2/08 (2006.01)

A 6 1 F 2/10 (2006.01)

A 6 1 F 2/28 (2006.01)

A 6 1 L 27/00 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 F 2/02

A 6 1 F 2/08

A 6 1 F 2/10

A 6 1 F 2/28

A 6 1 L 27/00 G

A 6 1 L 27/00 V

A 6 1 L 27/00 Y

A 6 1 L 27/00 Z

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年9月7日 (2010.9.7)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 1 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 1 4】

上記硬化剤は、トロンピン、カルシウム、ジビニルスルホン ( D V S )、ポリエチレングリコールジビニルスルホン ( V S - P E G - V S )、ヒドロキシエチルメタクリラートジビニルスルホン ( H E M A - D I S - H E M A )、ホルムアルデヒド、グルタルアルデヒド、アルデヒド類、イソシアナート類、アルキルハロゲン化物、アリアルハロゲン化物、イミドエステル類、N - 置換マレイン酸イミド類、アシル化合物、カルボジイミド、ヒドロキシ酸塩化物、N - ヒドロキシスクシンイミド、光、水素イオン濃度 ( p H )、温度、金属イオン類およびこれらの組み合わせからなる群より選択される、請求項 1 3 記載のインプラント。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 3 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 3 3】

上記硬化剤は、トロンピン、カルシウム、ジビニルスルホン ( D V S )、ポリエチレングリコールジビニルスルホン ( V S - P E G - V S )、ヒドロキシエチルメタクリラートジビニルスルホン ( H E M A - D I S - H E M A )、ホルムアルデヒド、グルタルアルデヒド、アルデヒド類、イソシアナート類、アルキルハロゲン化物、アリアルハロゲン化物

、イミドエステル類、N - 置換マレイン酸イミド類、アシル化合物、カルボジイミド、ヒドロキシ酸塩化物、N - ヒドロキシスクシンイミド、光、水素イオン濃度（pH）、温度、金属イオン類およびこれらの組み合わせからなる群より選択される、請求項32記載の製造方法。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0034

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0034】

固形あるいは硬化したインプラントが望ましい場合には、硬化剤が病変部位の所定位置に導入可能なインプラントを固定することができる組織担持基質に追加して与えることができる。この硬化剤は結合剤を架橋するように作用し、これによって組織フラグメントおよび生物学的適合性および生物学的再吸収性を有する顆粒が内部に存在する固形のインプラントを形成することができる。1つの実施態様では、インプラントは、一旦、移植部位に送出されたら、硬められる。しかしながら、仮に望ましい場合には移植前にもインプラントを硬化させることができるものと考えられる。硬化剤はインプラント内に含まれる特定の結合剤の架橋を生じさせるように選択されるべきである。適切な硬化剤は、例えば、トロンビン等の蛋白質分解酵素、カルシウム、ジビニルスルホン（DVS）、ポリエチレングリコールジビニルスルホン（VS-PEG-VS）、ヒドロキシエチルメタクリレートジビニルスルホン（HEMA-DIS-HEMA）、ホルムアルデヒド、グルタルアルデヒド、アルデヒド類、イソシアナート類、アルキルハロゲン化物、アリアルハロゲン化物、イミドエステル類、N - 置換マレイン酸イミド類、アシル化合物、カルボジイミド、ヒドロキシ酸塩化物、N - ヒドロキシスクシンイミド、光（例えば、青色光および紫外光）、水素イオン濃度（pH）、温度、金属イオン類およびこれらの組み合わせを含むものである。この発明は、分離細胞よりむしろ微細に刻まれた組織フラグメントあるいは粒子を用いることによって、組織フラグメントの自然環境がインプラントを固定するのに使用される苛酷な薬剤から細胞を十分に保護するはずである点を意図している。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0064

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0064】

（11）上記組織担持基質に関連して結合剤をさらに含む、実施態様1記載のインプラント。

（12）上記結合剤は、サメ軟骨、アルギン酸塩、ヒアルロン酸、コラーゲンゲル、フィブリン接着剤、フィブリンクロット、ポリ（N - イソプロピルアクリルアミド）、アガロース、キチン、キトサン、セルロース、多糖類、ポリ（オキシアルキレン）、ポリ（エチレンオキシド）・ポリ（プロピレンオキシド）コポリマー、ポリ（ビニルアルコール）、ポリアクリレート、血小板強化血漿（PRP）クロット、血小板乏血漿（PPP）クロット、マトリゲル、血餅、ゼラチン・レゾルシン・ホルマリン接着剤、ゴカイ系接着剤、ジヒドロキシフェニルアラニン（DOPA）系接着剤、トランスグルタミナーゼ、ポリ（アミノ酸）系接着剤、セルロース系接着剤、多糖類系接着剤、合成アクリレート系接着剤、グリセロールとコハク酸との液状および半固形の脂肪酸エステル類（MGSA）、MGSA / ポリエチレングリコール（MGSA / PEG）コポリマー類、ポリビニルピロリドン（PVP）、PVPコポリマー類、ゼラチン、アルブミン、モノグリセリド類、ジグリセリド類、トリグリセリドラミニン、エラスチン、プロテオグリカン類およびこれらの組み合わせからなる群より選択される、実施態様11記載のインプラント。

（13）上記結合剤を架橋してインプラントの固定を可能にする硬化剤をさらに含む、実

施態様 1 1 記載のインプラント。

( 1 4 ) 上記硬化剤は、トロンピン、カルシウム、ジビニルスルホン ( D V S )、ポリエチレングリコールジビニルスルホン ( V S - P E G - V S )、ヒドロキシエチルメタクリラートジビニルスルホン ( H E M A - D I S - H E M A )、ホルムアルデヒド、グルタルアルデヒド、アルデヒド類、イソシアナート類、アルキルハロゲン化物、アリアルハロゲン化物、イミドエステル類、N - 置換マレイン酸イミド類、アシル化合物、カルボジイミド、ヒドロキシ酸塩化物、N - ヒドロキシスクシンイミド、光、水素イオン濃度 ( p H )、温度、金属イオン類およびこれらの組み合わせからなる群より選択される、実施態様 1 3 記載のインプラント。

( 1 5 ) 上記組織担持基質は、少なくとも 1 つの生物学的成分をさらに含む、実施態様 1 記載のインプラント。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 6 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 6 9】

( 3 6 ) 上記結合剤は、サメ軟骨、アルギン酸塩、ヒアルロン酸、コラーゲンゲル、フィブリン接着剤、フィブリンクロット、ポリ ( N - イソプロピルアクリルアミド )、アガロース、キチン、キトサン、セルロース、多糖類、ポリ ( オキシアルキレン )、ポリ ( エチレンオキシド ) ・ポリ ( プロピレンオキシド ) コポリマー、ポリ ( ビニルアルコール )、ポリアクリラート、血小板強化血漿 ( P R P ) クロット、血小板乏血漿 ( P P P ) クロット、マトリゲル、血餅、ゼラチン・レゾルシン・ホルマリン接着剤、ゴカイ系接着剤、ジヒドロキシフェニルアラニン ( D O P A ) 系接着剤、トランスグルタミナーゼ、ポリ ( アミノ酸 ) 系接着剤、セルロース系接着剤、多糖類系接着剤、合成アクリラート系接着剤、グリセロールとコハク酸との液状および半固形の脂肪酸エステル類 ( M G S A )、M G S A / ポリエチレングリコール ( M G S A / P E G ) コポリマー類、ポリビニルピロリドン ( P V P )、P V P コポリマー類、ゼラチン、アルブミン、モノグリセリド類、ジグリセリド類、トリグリセリドラミニン、エラスチン、プロテオグリカン類およびこれらの組み合わせからなる群より選択される、実施態様 3 5 記載の製造方法。

( 3 7 ) 上記結合剤を架橋してインプラントの固定を可能にする硬化剤を準備するステップをさらに含む、実施態様 3 6 記載の製造方法。

( 3 8 ) 上記硬化剤は、トロンピン、カルシウム、ジビニルスルホン ( D V S )、ポリエチレングリコールジビニルスルホン ( V S - P E G - V S )、ヒドロキシエチルメタクリラートジビニルスルホン ( H E M A - D I S - H E M A )、ホルムアルデヒド、グルタルアルデヒド、アルデヒド類、イソシアナート類、アルキルハロゲン化物、アリアルハロゲン化物、イミドエステル類、N - 置換マレイン酸イミド類、アシル化合物、カルボジイミド、ヒドロキシ酸塩化物、N - ヒドロキシスクシンイミド、光、水素イオン濃度 ( p H )、温度、金属イオン類およびこれらの組み合わせからなる群より選択される、実施態様 3 7 記載の製造方法。

( 3 9 ) 上記組織担持基質は、少なくとも 1 つの生物学的成分を準備するステップをさらに含む、実施態様 2 8 記載の製造方法。

( 4 0 ) 上記少なくとも 1 つの生物学的成分は、抗生物質、抗菌剤、抗炎症剤、成長因子、成長因子フラグメント、小分子型創傷治癒作用薬、ホルモン類、サイトカイン類、蛋白質類、抗体類、酵素類、分離細胞類、血小板類、グリコサミノグリカン類、免疫抑制薬、核酸類、鎮痛剤、細胞タイプ、ウイルス類、ウイルス粒子およびこれらの組み合わせからなる群より選択される、実施態様 3 9 記載の製造方法。